日本の非商業映画・実験映画ヨーロッパ公開史 「もうヨーロッパに何も期待しなくていいんだ」

ジ ユ IJ アン 口 ス

しないために台詞や台本の翻訳と字幕付けをする必要性が緩 品は配給も比較的に安易であり、 だったからである。 主に小型カメラで撮影されたこの型の作 世界の各地を回った数少ない作品の大半は自主映画・実験映画 いるからと言って軽視してはならない。その理由は様々だが、 記録も浅い。しかし、この様な形の映画は一般の公式と外れて ので、公開経緯を辿る事が困難である。その上、上映されても 上映履歴は五十年近く経った今からだと掴みにくいところがあ った。しかしながら、 公式な商業映画館でない空間や方法で上映される事が多いため 一つ重要な点を挙げてみれば同時代に国際的な注目を浴びて、 九六〇~七〇年代の非商業映画や実験映像作品 大手の製作会社と比べると上映も断続的で回数も少ない 世界各地を回る事が出来た一番の理由 物語の展開や言語表現を重視 の個別的 か な

> 画より、視野を広げて世界に挑んだ実験映画の方が国際的 営利的な枠組み形式に対して世界共通に反抗的な意識があ 本を代表していたのではないだろうか。 からである。 単眼的に国内の売り上げに集中していた商 つ た

倶楽部や小劇場などの場所で上映が殆どであった。まず、ベ 史を辿るには欠かせない非商業映画・実験映画は同時代にどう たこの型の作品は国際映画祭、 に検討してみたいと思う。一般公開とは別途の経路で紹介され の小論文を通してヨーロッパ内での公開企画や受容を英国中心 いう形で紹介され、どのような評価を受けたのであろうか?こ ギーの世界初国際実験映画祭 EXPRMNTL の第三・四・五 このような状況を背景に、一九六○~七○年代日本の映画 美術館、 規模の小さいメンバー

ル

活 パ 考察してみる。最後に当時の実験映画作家の中で最も行動 美 されたかを論じてみたいと思う。この点では現代芸術を扱 館 映 **以画作品** 、術館「ICA」 (インステチュート・オブ・コンテン った飯村隆彦を一例として、 メンバー倶楽部 動を検討したいと思う。 英国のロ ツアーと一九七二~七四 アーツ)の | Fluorescent Chrysanthemum」 映画祭とは別途に「美術」の文脈でどのように英国 の選択とその評価を紹介する一。 ンド 九 六七・一九 ン映画祭とエディンバラ国際映 の上 映会を例として実験映画と美術の 七三年 年 半年に渡る一九六九年ヨーロッ -のドイツ滞在を中心に彼の海外 版 0 日 次に実 本 0 出 画 (蛍光菊 品 祭 映 0) 画 関係を ポラリ E 非 が 紹 労力が 展 2 映 商 う 画 介

ル

まり もう一方に日本の を本格的にヨーロッパに紹介した事で有名な EXPRMNTL3 ネマと共通した淡泊な雰囲気を賞賛した。このように Broughton) 氏は日本の出品 ヴェント、キネティック・アートの展示や文学に関しての で行なわれた EXPRMNTL3 だろう。 がる生物」の(未)公開を通してニュー・アメリカン・シネマ マ以外の上映作品を「古くてアマチュア」と批判した。。 審査員としての 査員として招待された評論家・ (Jack Smith) (Jonas など映画上映の枠から外れた活動も含めた展開だった。 Knokke-le-Zoute(クノック・ル・ズ もう一人の審査員であったジェームズ・ブロートン (James 1 0 作品 九六三年 トン氏の意見に賛同した審査員は、三十一カ国四百本あ Mekas) が集まった〈国際実験映画コンクー 監督作品 氏はベルギー 'n 仕事を拒否して、 クリスマスから元旦までの 実験映画史にも重要な出来事を及ぼした4。 「燃え上がる生物」 作品 の法律によるジャック・ 映 ニュー・アメリカン・シネ のニュー・アメリカン・シ 一画作 第三 家のジョナス・ 回 1 の上映禁止 ト)の 目 期 は 間、 ル 電子音 カジ さな海 に怒り、 「燃え上 Н メカ スミス 楽の ノ しか 0 本 は ス ネ σ 審 イ 中

EXPRMNTL 国際実験映画祭

全て上 画 ル した実験映画祭は、 は五年に ル 万国 ド をまとめた。 ・ゥー ル 博覧会の一 映する事に挑戦した。 実験映画コンクール〉として企画され、 度程のペー (Jacques Ledoux) 氏が立ち上げた「EXPRMNTL」 王立シネマテー 恐らく、 部として開催早々四月二十一日 まず第一 スで行なわれ 初めて日 -ク 主 第二 口 [はいままで創 催でキュレ 口 本の実験映 た。 一 は 九 九 Ŧī. Ì 八年の られ 几 ター 一画が 九年六月に開 世界 た実験 <u>\</u> のジャ :参加し ブリ 0 + 実験 Ĺ 映 七 ッ ッ た \mathbb{H} 画 ク 0) ま 映 セ を

出

品作品七本に特別グルー

プ賞を授与した。

外で認めら 結して紹介される事となった5° に実験 こうして EXPRMNTL3 で始め 映 画 □が本格: れた事は日本でも 的に認められる機会へと繋が 初めて正式な形で国 て海外に日 そして、 Н 本 本 \dot{o} Ò つ 実 実 内製 験 験 映 映 半年 作 画 画 が が n 海

EXPRMNTL 3特別グループ賞受賞作品覧

作家	作品	年度	分数	プリント	
吉田直哉	日本の文様	1963	30 分	16mm	
藤野一友・大林宣彦	喰べた人	1963	24 分	16mm	
平田穂生	家	1963	18 分	16mm	
高林陽一	砂	1963	26 分	16mm	
飯村隆彦	ONAN	1963	7分	16mm	
ドナルド・リチィー	戦争ごっこ	1963	20 分	16mm	
ドナルド・リチィー	ふたり	1963	59 分	35mm	

受賞者の大林、高林、

飯

リチィーは同年にぐる

ン

六九) に連結した。。その上、

に行なわ

第三回国

また二人の日本人作家が受 (一九七一)と岡部道男 中井恒夫の 金

なった EXPRMNTL5

でも

九七三年開催の最終回

映が企画された?。

遡って、

よってメンバーの作品の上 リチィーと飯村の行動力に 外(北米・ヨーロッパ)でも 間東京を拠点に行ない、 などの団体活動を五年程 ダンを組み、その後も上映 **〜ぷフィルム・アンデパ** 月実験映画祭(一九六七~ として一九六四年六月十 に草月アート・センター 草月シネマテーク第九回 本部門作品特別上映_ [際実験映画祭受賞 れ、その後の草 Ė で 代表的な EXPRMNTL4 に招待された若松孝二監督作品 「胎児 が密猟する時」の上映に当たる会場の反応を調べると誤解を招 同時代に認められたように見えるが、 いた事が認識できる。 てではなく自己表現として日本の実験映画作品を受け入れた® の「少年嗜好」(一九七三)に賞を授与した映画祭は、 見このように EXPRMNTL 国際実験映画祭では日本の作品は 映画祭の由縁に関しても

年の頭 ミッドを組み、 中で、若松孝二の作品が思いもよらぬ反響を及ぼした。上映中 No 4」の四本が映画祭に招待された『。政治と映画が交差する がアンソニー・コックス (Anthony Cox) と撮影したの「FILM 林陽一の短編「村肌」(一九六七)。 とイギリスでオノ・ヨー ニメーション 「あなたは何を考えているの?」(一九六七)、高 本の映像作品は若松孝二の作品も含めて、久里洋二の短編 では左翼や学生の味方として認められていた若松孝二の作品 家のローランド・レーテム (Roland Lethem) 氏の記憶による 上がりベトナム戦争反対運動参加を観客に奨励した。 シスト映画と批判して、二度目の上映の封鎖をするため舞台に にドイツから訪れた学生革命家が「胎児が密猟する時」をファ ーロッパ各地から美術家、学生や活動家などが集まった。 国際的に政治の季節が沸騰に至る寸前の一九六七年末~六八 反抗に熱心な学生諸君は映写の邪魔をするために人間ピラ に開催された EXPRMNTL4 には、 舞台幕に火をつけようともしたらしい 映像作家も含めてヨ 映画批評 11 コ 7 Н

海 0

団体とし

長・佐藤重臣と若松孝二は、 このようにヨーロッパの学生運動では正反対の反応を起こした だ。ブリュッセルまで一緒に同行した雑誌「映画評論. この出来事について当時行なわ 編 れ 集

たインタービューでこのように答えた。

レリ テム氏によると、 藤:何にせよ、男と女の間には戦争しかあり得ないの りません。 12 す。「胎児」 馬鹿どもですね。 を理解できない白痴ども…救いようがあ 上映時も若松孝二の反応は同じく彼 頭が空っぽです。 で

13 と い う。 に同じく劇場の観客の反応を貶した。 は怯えも見せずに「会場の隅で口を大きく開けて笑って[た]」 こういう場 佐藤重臣も帰国後に書き上げた「アングラレポート」 面がもし再現出来たらと日本を出て来る時 か

思

けども!

口

ッパのインポども。

お前たちはこの程度のもので、

に恐怖を感じているじゃないか。何がヨーロッパだ。

腰抜 すで 私は若松と手を握った。「遂にやったぜ! 若ちゃん。 り広げられると、イヤが上でもコーフンするしかなかった。

日日

っていたのだが、 その思惑どおり、 いま眼のあたりに繰 映画に以下の感想を残した:

何も期待しなくていいんだ。ヨーロッパから教わることな んて、何にもないんだ。 んだ、い いんだ。これでいい んだ。 もうヨー 口 ッパ 13

属することなのだ。14 若松がファッシスト呼ばわりされたことは、 むしろ栄光に

時」の上映の場合は同じようにいかなかったようだ。 若松孝二の作品は批評家にも反対された。英国のICAのマネ 認められた」。 国内では「国辱映画」と批判されつつヨーロッパの批評家には 待された若松孝二の作品 ージャー、マイケル・カーストウ (Michael Kustow) 氏は同じ 九六五年ベルリン国際実験映画祭のコンペティションに招 しかし、三年後に行なわれた「胎児が密猟 「壁の中の秘事」(一九六五)の場合、 観客同様

くらいサディズティックな映画。 私の一生の中で一番軽蔑する、日本から来た信じられない 画 [が毎週のように製作されていると書いていた。16 作品の監督はこのような

て腰を抜かしていたのであろうか?そして、ドイツの革命家と に「頭が空っぽ」であり、 ドイツの学生運動の革命家は若松孝二が言うよう 佐藤重臣が言うように「恐怖」を感じ

あるのだろうか?
カーストウ氏の意見と合わせて「胎児」は軽蔑するべき映画で

この上 験映画 タログの頁に作品の説明文章を残す場を譲った。「胎児」が実 は予測したそうで、誤解を防ぐために映画祭の参加者全員にカ い違いは実験映画では可能性が高い事をジャック・ルドゥー 主義を基盤とした映画だと気付かずに書き上げた。この様な思 するマニフェストを、先程批判した映画「胎児」が同じく反米 ルギーの革命家と組みアメリカ共和国の帝国主義に対して反抗 評論家もいた宮。上映を企及封鎖後、ドイツの学生運動家はベ コンペティションの中では一番磨かれてあった映画」と褒めた を批判していたようだコ゚。そして、中にも「もっとも蠱惑的 シャーリー・クラーク (Shirley Clarke) も同じく運動 もいたようだが、映画祭でも審査員の一人であった映画監 を反映している。 カに関心を移し始めた戦後日本の美術・ なかったようであり、 言からするとヨーロッパの若者活動家の批判を本気に取る気は 明確に浮き出て来る気がする。佐藤重臣も若松孝二も彼等の発 この二つの反応を隣り合わせにすると両面的に訛 映を実例として指摘された実験映画の特徴とこの映画が の枠内でヨーロッパに紹介されるのを妙に思った方は、 致することに関しては共感せざるを得ないと思う。ド 映画祭の参加者の中にも学生の支援をする人 彼等の表すヨーロッパへの失望はアメリ 映画界の全般的な意向 伝な誤解 0 理性 で、 氏 督 が

ず、「胎児」の上映に関しては別の道を歩むこととなってしまイツの革命家と若松孝二は共鳴する意思を抱いたにもかかわら

受容は日本の非商業映画・実験映画の業界には効力がなか 画祭にて同時代の受容を調査してみたいと思う。 辿ってみると上映がヨー かった。 の二大国際映画祭であるロンドン映画祭とエディンバラ国際映 EXPRMNTL 映画祭を一例として検討してみたが、 たのか? それにしては、 同 時代のヨーロッパの受容に関しては、この しかし、 佐藤重臣が言うように本当に ロッパの映画祭で多い。 日本の実験映画の海外分配歴を 様 ヨーロッパ 続けて英国 ベルギー な誤解が 0 0 つ

ロンドン映画祭・エディンバラ国際映画祭

れた日本の映画はロンドン映画祭で上映されることが多かった日本の映画はロンドン映画祭で生い、カンヌやヴェネチアなどの国際映画祭で頻繁に上映さかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、一九五〇)がヴかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、一九五〇)がヴかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、一九五〇)がヴかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、一九五〇)がヴかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、一九五〇)がヴかを辿るには有効であり、「羅生門」(黒沢明、カンドン映画祭で上映されることが多かった。

祭で上 督作品 三本上 画 たにもかか 多かった20。 待された。 < 5 た。 Α ルド 出 、親し 数 価した。 TG関連作品「告白的 なは多か なかったようだ。 [よ] が招待され米国と英国の次に日本の代表作品 デー・ П ンド 比 主 映される機会が よりも上 九六〇年代だけ 映した日 Â 11 氏は「近. たので、一 付き合 映画作家の勅 ベてスコ 明 T その いった。 わらず、 大島渚の タイムズ新聞 ン しかし、 映 一映回 本は、 後七○年に入っても特に日本アー 画 13 製 年 一祭は ッ が 作 ŀ 0 見商業映 数 蛛 続 「少年」 九六〇年代後半は日本 不況 が多く、 あ でもロ 商 ラ 使河原宏と羽仁 映 0) A T G 13 和給作品 九 た 19 ンド 巣城 画祭の 業映 ったようだが の 女 から 七二年は 《優論』、 評論家デリック・ 一が映画 周 画 画 0) ンドン映 で 辺の非 0 中で最も上映 [を中心 同じ六〇年代でも三 0 工 九六 一ディ リバ の選択が多く、 臨 「修羅」と「 一祭の ある意味特別だっ 九 在 商業映 が強か 一画祭は に日本 ンバ イバル」と日 Ŧī. 進の作品 実験 年 ク 七 П 1 度 ラ映 温沢 + 映 画 0 ったように見 本 0 0 プラウス ジン は小 は 映 数 第 映 画 画 月 九 を 朔 は 画 が 祭 П ŀ $\mathcal{F}_{\mathbf{i}}$ 画 グだ 捨 本 作 津安次郎 多 作 0 口 ン 0 0) 回 方が ンド Ó 七二 シア 品ず 作品 K H. たようで 0 品 7 映 (Derek 選ば 映 本 国 映 画 画 年 夕 える を三 一祭で 上 ン 映 回 数 0 だ は 7 映 画 数 を が 町 は 招 映 れ 1 長 か

つ

る。

JAPAN 回も間 商業映 の企画 を示さなかっ を含めた十 わりには、 が広 記監督作¹ 監督 日や実 九 たの などの 本も日 や久里洋二の 七三年には松竹を「ソー 再 わ かっ 発 が 0 験 違えているのも象徴 画 Ł など歴史的にも個 ħ EVENT と名 見され 首 作品をエディンバラ国際映画祭は上映せずに、 た時期も 映 自 H 品 k 黒沢 たにしても並び合 例 五本 主 本 画には関心があったよう 体の存在も全体的に薄か 0 本 ン が 映 Ó 記録映 たエディンバ 0 心としたエ 映画 あっ た木下 画 映 映 明や小津安二郎監督作 Ō) 短編アニメーション「アオス」(一九六六年上 |作品を中心に増えてい 画 作 画 た 22 ° 祭と比べて日本作品 品が上 は上 付けた大規模な邦 0 画 扱い -恵介監 ド 映されなかったが、 性 特 デ 六○年代後半一九六七~ 集プ 一映され ある 1 丰 的である。21。 に関しては ラ国 ・チク」 わ ン ユメント・ 督 せ 映 口 バ 一際映画 0 た 23 。 が危うい グラム ラ 画祭として評 自 や「シー 国 だ。 0 主 画 品 際 たの 特 映 祭は、 時集 、った。 上映 H 0 路 0 フェ 面 徴として 比 かし、 一本の商 例 上 ・チク」 上 上」(一九六四 が特徴とも言えて、 作品 その 較 映 が 映 P ス 代 的 に価され 回 企画され、 が 独 テ 13 後 九 < 作 K わ 業映画に興味 など文字を二 同 数が多か イ 挙げ 狂 七一 は ŋ 時 0 品 七三年に からまた な バ ĺ 大 か 0) 代になか 映 ル 6 土本 年 手 選 自 it あ 画 と 年上 Ŀ ま Ó 主 ć つ 同 典 上 で 巨 映 た 11 映

昭 匠 画

U

ン

K

ン

映

画

祭より十

年先に開幕

したエ

テ

イ

ンバ

ラ映

画

祭

映され に関

た 24 °

JAPAN EVENT

で

Ŀ

一映され

た松本俊夫の

は 近 幅

特 $\overline{\mathsf{H}}$

别

係もなく大島渚監督作

品

の「ユン

ボギ

 \dot{o}

日

記

映

回

で日本の実験映画を紹介した映画祭とも言えるでしょう。実験的な映像を上映した経歴があるので、英国では唯一同時代をれでも、エディンバラ映画祭は国際映画祭の中でも比較的にそれでも、エディンバラ映画祭は国際映画祭の中でも比較的にが深作欣二監督作品の「仁義なき戦い」と上映されたことだ5。

品全般に当たる「儀式的不合理性」のテーマと一致した作品 のケン・ヴュラーシン (Ken Wlaschin) 氏には、 れた映画」と評価した。 明らかになった。ガーディアン紙の評論家デリッ で上映された大島渚監督作品の「儀式」に関してのコメントで 画と商業映画業界の区別が出来ていない事が、 ンリック・イプセンと比較されていた。そして、 そして映画祭のプログラムの紹介文ではノルウェ ンソン (David Robinson) 氏には時代劇メロドラマという鑑定、 ンデー・タイムズ紙で評価され、評論家ディヴィッド・ 小林正樹の「上意討ち拝領妻始末」は「アジア的西洋映画」とサ った事が分かった。 日 映 (Derek Malcolm) 氏は大島渚の作品を「小津スタイルで描 画批 1 ロンドン映画祭やエディンバラ国際映画祭の作品 ロッパの評論家は日本の時代劇に関しての知識が足りなか 評を調査すると更に英国 一九六七年にロンドン映画祭で上映された 当時のロンドン映画祭ディ 「での受容が明らかになる。 口 ク・ 映画祭出品作 ンドン映画祭 ーの劇作家へ 日本の自主映 選択と同様 マルコム クター ロビ まず、 か

不自然的な展開は日本から来た事が理由として挙げられていた。して紹介されたが、ザ・タイムズ紙の批評を読むと「儀式」の

物が「儀式」では見られる。」∞イさんや近親相姦も含めて普段の日常生活にはあまりない「日本の映画だとは分かっているが、支配的で冷たいオジ

期に関してのロンドン映画祭・エディンバラ国際映画祭の 要性の自覚はあったようだ。とはいえ、六○年代と七○年代初 ように日本の映画について批評する基準点の足りなさとその 狭いのが明確に分かる。とはいえ、英国の評論家も知 る必要性を表した。 グラム形式とその受容は反映し合い、 考え直さなければならないことが分かる」と主張した♡。 賞してから、「今村昌平の映画を見てみると、 は今村監督作品を一九七三年度のエディンバラ国際映画祭で に関して自己批判はしていたようだ。スコッツマン紙 祭に招待された日本の作品も数少なかったせいか、 に、一九七○年代の段階では英国で一般公開された作品も映画 遠 隔 には当時のオリエンタリズムが反映している。 0) 国である日本ならではである非日常的な出来事という 全般的に評価 日本映画全体を 評論課程 の幅を広 このよう 流識の浅 0 評論家 この ンプロ 観 が

時代を遡ると、日本の非商業的作品は本格的に映画祭で扱わ

以

された²⁸。 b 劇団 寺 受けて、寺山 ンに飛び込む劇的な「ローラ」はザ・タイムズ紙で高 姿勢は全般的に評価されたようで、 8 クスパンデッド・シネマ) 作品 特集では、 0 n た短編プログラム二つとATG製作の長編映画 時点ですでに知名度があり、 Ш るようになった。一 深かった映画 出よ」と「田園に死す」を上映した。 天井桟敷と寺山 司の短編作品プ 寺山 は今年度エディンバラ国際映画祭のスターと歓 修司自身も森崎偏陸と同行して「拡張 一祭で始めて映画作家として紹 九 修 口 罰は 七五 グラム二つと長編二本が上 日 年のエディンバラ国 1 「ローラ」や「審判」の上演 エディ 特に森崎偏陸氏が ッパ ンバラ演劇祭との の演劇界の文脈では 寺山 介され 修 司 際 「書を捨てよ、 0 一映され た。 映 映 前 スクリ 11 画祭では 一(エ この 衛的 繋が 評 価 た。 迎 1 小 ŋ を な

エロ れた大特集は一九六〇~八四年の間に製作された作品を幅 CINEMA」をエディンバラ国際映画祭で企画して、 インズ (Tony Rayns) 氏は 「の枠を広げた²⁹。 牟 道男監督作品 ス + 虐殺] と 劇 金井勝監督作品 团 天井桟敷にも参加した評論家の 「薔薇の葬列」 編映 〜年嗜好」と「回想録」、 画も含めて五十四本の | EIGA 25 YEARS OF JAPANESE 無 八列 などのATG制 島 などの 寺山 独立 作品 修司 作 更に日本映 トニー ブ が紹 0 配 口 短編 給 1作品、 作品、 介さ 作 広 レ

画

品

メージフォー

ラム周辺の短編特集などを含む実験

画

0

カタロ 界という扱いは続いたようだる。 秘的東洋は秘密をいくつか披露した」と書くなど、 論家ジュリー・ 寺山修司 を主張したかったようだ30。 異国情緒 かし、オリエンタリズムは根強くグラスゴー・ グラム 0 英国で日本映画を扱う中では最大な特集が企画され 評 グには大島渚や佐藤忠男が :論家イアン・ベル (Ian Bell) 氏によるとレ の対談 の枠組みから日本を救い、 などがレインズ氏によって選択され などの英訳が記載されるなど充実した内容を含 デイヴィッドソン (Julie Davidson) 氏は 映画祭を機会に出版された特集 執筆した論文や大林 宇宙 から来た花では た。 ヘラルド ス 未知なる イ コ ンズ氏 ツ 宣彦と 紙 無 ッ マ 0) 評 世 神 L 事

紙 口

えられる。 の手法が見られるようになり、 る方法は映画祭だけではなくなった。 映画の扱 インバラ国際映画祭の同時代に当たる日 美術」の枠内でも映画が扱われる事が国際的な傾 映像 六○年代後半に入ると日本の 上 」の企画と受容を検討してみたいと思う。 いとその受容を、 EXPRMNTL 国際実験映画祭、 そこで、 映画祭や 映画祭を通 般公開 い映画が 時期 映画館 は から外 して検討してみ ガヨー 口 別世界として思われ 本の非商業映 ン ĸ ・ロッパ の枠を越えた映像 'n ・シ映 た 美術として 向として考 に紹介さ 画 た。 祭 画 実験 L デ た n か

美術としての時代

フィ れる。 され、 ニチュア、 絵画ではなくデザインを焦点としての現代彫刻、 使われる上映方法以外のやり方で紹介した。蛍光菊 った。ICAでは映画館での上映も含めて、 識的に行っていた場所としては、 に関しては重要な場となった。 代美術を始めてヨーロッパに紹介する事となった。 た「Fluorescent Chrysanthemum」(蛍光菊)展が は一九六八年十二月七日~六九年一月二十六日まで開 によって東京画廊と南画廊の共同企画がなされた。 九四六年に多分野の境界面と共同の可能性を探るために設立 キュレ ック・デザイン、 ンド この展覧会は個別的に針生一郎が彫刻、 一九六八年に現在に至る場所に移ってから更に現代美術 \sim 6 Institute of Contemporary Arts (\vdash グラフィック・スコアや映像を展示した事が挙げら ーターのヤシャ・ライハート (Jasia Reichardt) 秋山邦晴が音楽、 芸術の境界線を超える活動を意 国際的に見ても当時は特別だ 東野芳明 映像作品を普通に 中原佑介がグラ が ポスター 展の特 映 日 I C A С 画を担当 本 催され Α 徴は 0) 氏 3 は 現 で

)杉浦 示 の 緒に展示された。 康平の構成によって、 空間の 草月実験映画祭とフィル デザインを担当したグラフィック・ 東野芳明氏に選ばれ 映像は最終点に当たる部 ム・ア ĺ た映画 1 フ エ 作品をみる デザイナー スティ 屋に図形

> 二監督作品以外は恐らくヨー も同じ展示で多別分野の活動が披露された作家もいた。 今井則雄は同じ題名のミニチュア「円」を出品したので、 宇野亜喜良はポスター部門で出品作品もあり、 ニメーション分野の作品が多く、中にも他分野で紹介された作 集まってい 分野で活躍している映像作家が導入されたようだ。 家と関連性の強 元々草月アート・ センターでは早くも注目を浴びてい あるいはグラフィック・デザインなどの ロッパで初めて上映された作品 具体美術協会の 横尾忠則 た実験 久里洋 中に

各テー ック 展示は時期尚早な段階であった。 認識も薄かったと思われる。 映画はループとして流れていたようだ。 空間を共用したにもかかわらず、 方法の辿々しさもその一例として挙げられるだろう。 ンスタレーションの例もまだ少ない当時はよりいっそう映像 は今でも美術界では問題点となっているが、 ログラムを観賞した観客は恐らく少なく、 L 示 の意図 ・デザイナーの杉浦康平がデザインした展示構成を見ると か マの関連性を勘考してあるようだが、 が注目されたようだw。しかし、 蛍光菊展の展示構成を見ると、 美術館の空間に当 スクリーン一つに投影され 蛍光菊展の展示の映像の展示 合計二 図形 個別の作品としての 通常とは異なる取 実際は作 映像を引用したイ 元る映像の扱 時間十六分の 譜の展示と同 グラフィ 品よりも 0 た

ル

東京 1968 に当たる映画祭の受賞・出

品

作品

が多い。

その・

Ė

作品 しても として挙げられる。 組 み方法で映像作品をヨー 挙に披露されたのもヨー 蛍光菊展の映像展示は見過ごしてはいけな その上、 口 これほどの本数で日本の ツ パ に紹介した面 口 ッパで初めてだった事に関 一では 重 実験 要な 映 企 画 画

拠

当配: 近辺地 楽部 ザ 映 監督作品 画祭で高く評価されたにもかかわらず、 般 クラブはICAも含むロンドン各地で上映を行い デリック・ヒル 本の商 は禁じられていたが、ニュー・シネマ・ £ 由 展 :に上映施設を貸したため非商業映画の上映も行なわれた。 P 0 映が禁じられた作品の上映を行なった。ヴェネチ 示 ザー 域 以 配給が行なわれた。 業映画や長編自主映画が上映された33。 团 のソー 体 「心中天網島」はクンニリングスの場面 ・シネマ (The Other Cinema がロンドン各地で上映を行なった。 も映 ホーではエロティックな映画として、 (Derek Hill) 画 0) Ŀ 一映を行なったICAでは、 他にもエレクトリック 氏が企画したニュ ATG製作 サ クラブにて倶 例えば評論家の Ì `検閲 K のため一 ー・シネマ (Electric) 0 会員制 シネマ 篠田 ア国 様々な日 0 ため 楽部 正浩 般 際 0 担 P 上 映

飯

0)

後に日 ドン・ 映は数少なかったが、 ととなった。 に在ったザ・ 1 カ国四十箇所に渡るヨーロッパ・ツアーの出発点となった。 ッド・カーティス (David Curtis) のものだった。ザ・アート・ラボの映画プログラマー ト・ラボでは、 村隆彦の上 実験映画やクラシック映画を上映した。 地として上 ブッ 本で唯一 コ 1 クスが閉店してからICAなどで上映を企 ポ 一映や拡 は 映が行なわれた。この上 アート・ アメリカ人のジム・ヘーンズが始め 日 | 各分野の芸術活動を一つの空間に統合するため コベント・ ロッパを六〇年代にツアー 張 一九六九年一月に日本の 映 ラボ (The Art Lab) でも上 画 の上演をした30。 ガーデンのドリュ 氏は北米 映企画が半年 日 • 本 日 実験 1 をした実験 'n 九 実験 六七 1) 一映され たげ П Ì 0) 画 映 ッパ 間に 映画の 年にべ 0 画 したロン デヴ 作 レーン 中心 アー 家 夕 上 ィ

村隆彦の六〇〜七〇年代ヨー П ッパ 活

飯

作家

飯

紅村隆

彦

0

 \exists

1

口

ツ

パ活動を検討してみたいと思う。

画祭プロ 氏 を中心に組まれ の紹介文では、 飯 村隆彦 グラマー は た短 九 以下のように飯村隆彦は紹介された。 0 七四年のエ 編映画 ジ 3 ン ・ プログラムが二つ上映された3。 デ 一ディ ュー ンバラ国際映画 • ケー ン (John du 一祭で 時 映

飯 村隆彦はここ数年西洋で発達しているアヴァンギ ヤ ル

はべ

夕

ĺ

ブックス (Better Books) という本屋の地下室を本

ィ

A

メ

1

力

1

ズ・コー

ポ

(London Filmmakers, Co-op)

地で上

映が企画され も同じく一

た。

九六六年に組まれたロ

ンドン

験

映

画

般公開

や映画

四祭と別

0) 経

路

でも

口 ーンド

「Fluorescent Chrysanthemum」(蛍光菊) 展映像作品一覧

監督	作品	英題	分数
HARA Masataka (Masato) 原正孝(原将人)	おかしさに彩られた 悲しみのバラード (1968)**	Sad ballad coloured funny	13 min
HAYASHI Seiichi 林静一	カルゲ (1968)*	Shadow	4 min
IMAI Norio 今井祝雄	円 (1967)*	The circle	4 min
KATSURA Kohei 桂宏平	うたかたの恋 (1968)**	Fleeting love	10 min
KURI Yoji 久里洋二	G 線上の悲劇 (1969)	Tragedy of strings	8 min
NAKAI Tsuneo 中井恒夫	パリュウド (1968)**	Paludes	24 min
NISHIMIYA Masaaki 西宮正明	草野心平詩集 (1964)	The poetry of Kusano	5 min
OKUMURA Akio 奥村昭夫	猶予もしくは影を 撫でる男 (1967)**	Postponement, or the man who stroked his own shadow	27 min
OHI Fumio 大井文雄	無限大・無限小 (1968)*	Infinity and limitation	10 min
SAKAMOTO Yukimasa 坂本行正	ホジ・ポジ (1968)*	Posi-posi	6 min
SHIMAMURA Tatsuo 島村達雄	幻影都市 (1967)**	The city of illusion	5 min
UNO Akira 宇野亜喜良	La Fate Blance (白い祭り) (1964)*	White festival	7 min
YANAGISAWA Miwako 柳沢美和子	側 (1967)	Side	2 min
YAMADA Manabu / TSUKIO Akio 山田学 / 月尾嘉男	風雅の技法 (1967)**	The art of fugue	3 min
YAZAKI Katsumi 矢崎勝美	女 x 女 = 女 (1967)**	Woman (Woman times woman equals woman)	2 min
YOKOO Tadanori 横尾忠則	堅々獄夫婦庭訓 (1965)	Kachi-kachi yama	6 min

^{20 *} 草月アート・センター主催の映画祭出品作品を示す。

^{**} 草月アート・センター主催の映画祭受賞作品を示す。

K 映 貢 献 る 唯 0 H 本 人であ

から半 0 期 ではある程 滞 村隆彦は、 年 は 映 0 間を終えた飯 在 八月二十六~二十 H 画 実験 した経 本 0 0 车 'n 紹 活 実験映 \exists 介文で表 度の その時 動 画 1 歴を通 は西洋が中心として思 作 口 家が ッ 村隆彦は妻の 知名度を持つこととなった。 画 パ して海外 点ではニュー 作家は知ら 本 0) 九 るように、 格的に 各地を 日 K Ó 工 飯 デ n \exists 回 活動が盛 イン I E 1 (村昭子と一緒に一 ていなかったようだ。 0 日 た。 口 1 ク、 バラ国際 わ ッ 口 このように、 血んにあ れ パをツアーすることとな ッ ベ 7 パ ル |際映 11 0) ニュ リン、 て、 ŋ 視 の画祭を 点 九 飯 1 実 か 六九 始めて日 験 パ 村 \exists 5 映画 訪 1 リなどに Ú - ク滞 年 九 彦 n [業界 た飯 七 以 実 月 本 在 四

X

1

力

]

ズ・

コ

1

ポ

Ь 心に大林宣彦、 村 h 九六 隆彦 だプ 飯 地 ば 村隆彦の 四年に結 IJ 0 持 個 プ ち運 ŀ 人 口 から 0 グ 温成され 金 び、 作品十本と共に持ち運ばれ 作 ラ 坂 Á 構 品だけではなく日 健二、 日 成され は たフィ 1 飯 口 村隆 高 ツ た 林陽 ル パ 彦と 4 の各地にて上 ここで 妻 と外 アンデパ 本 0) 注目 0 飯 山 実 村 鶴 験 す 昭 ンダンの 一映を行 良 子さん 映 Ź 0 画 ベ 作 き なっ 仲 品 作家 間 事 が が た事 0) は 作 本ず が ち 中 だ。 品 運 飯

フ

イ

ル

4

ア

·ンデパ

ンダ

ン

周

辺

0)

作

家

がは北

米では六〇

年

代

さ

n

飯

村

大

西洋 表的 も上 品自 では 0) ば 九六六年四 め だけ な実 映機会が少 体 紹 7 た。 か 1] 5 0 介 \mathbb{H} 奇異 文でリ チ 本 でなく世界で始 験 映 イ 九 0 飯 月二十九日 実験 1 画 的 村 な 氏 作 な 五年には 隆彦とド チ イ 0) 品 11 特 映画 企 が ・事を指 質に 1 画プ は が 0 知 H 北米に紹介され サ ナ めてだという事を主 П 三十日では 名 0) 本 ル 摘 ン グラム したリ プ 度 0 K 実験 口 0) フ IJ グ 低 ランシス Japan Underground クラム チ 映画の配 V チ ニニュ イ 1 理 13 1 1 由 た 39 1 まとめ を定 は、 コ \exists 給 よっ 張 0) 1 この ゥ L め 0 た。 5 0) た。 少なさと 0 ゙゙゙゙゙゚゚ n ように フ Movie) そし たの 玉 口 イ 丙 グ ル 作 ラ は 代 で 7 A 7

4 初

Films 企 日 数 Showing」を開 佐 1 口 Film—New York Japanese Experimenta 画 グ 月 ケ 藤 ク 月後 ラ 三十 近 重 From Japan J は「Experimental Á 代 臣 ょ がリチ の 一 ح 美 0 日 術 7 飯 5 九六六年 村 館 二 催 ィ で ユ 隆 L First 月二 ŀ. 1 彦 1 た。 映 \exists 氏 が



佐藤重臣(左)と飯村隆彦(右)、 ニューヨ ークのフィ ルムメーカーズコーポ事務所。1966年、写真家不明

実験映画作家・飯村隆彦の 1969 年ヨーロッパ・ツアー

日程 (1969)	国	都市	会場	個 / 特
3月13日	オランダ	アルネム	Arnhems Daglad Hertsten Ochtendgloren	特集
3月15日	フランス	パリ	American Center for Students and Artists	特集
3月16日	"	"	"	特集
3月17日	"	"	"	特集
3月19日	オランダ	アムステルダム	Filmmuseum	個人
3月20日	"	"	"	特集
3 月26日	オランダ	アイントホーベン	Stichting Stadsschouwburg	個人
3月26日	ドイツ	オーバーハウゼン	映画祭 ¹	特集
4月10日	ドイツ	ケルン	XScreen	特集
4月18日	ノルウェー	ハーヴィクーデン	Europeisk turne pa Hovikodden	個人
4月23日	フィンランド	ヘルシンキ	Suomen Elokuva- Arkisto	個人
4月24日	"	"	"	特集
4月25日	"	"	"	特集
5月6日	スウェーデン	ストックホルム	Svenska Filminstitutets Filmklubb	特集
5月10日	デンマーク	コペンハーゲン	Filmmuseet	個・特
5 月20日	ドイツ	ベルリン	Freunde der dt. kinemthek	個人
5月21日	"	"	"	特集
5月23日	ドイツ	カッセル	Hochschule für Bildende Künste Kassel	個・特
5月30日	ドイツ	ミュンヘン	Augusta-Kino	個人
5月31日	"	"	"	特集
6月4日	ドイツ	フランクフルト	Cantatesaal (映画祭) ²	個人
6月17日	イタリア	ミラノ	Studio Orti	個人
6月19日	"	"	"	特集
6月20日	スイス	チューリッヒ	Platte 27	個人
6月21日	スイス	チューリッヒ	Filmklub Zürich	特集
6月25日	イタリア	ヴェローナ	Galleria Ferrari	個・特
6月26日	イタリア	トリノ	Unione Culturale	個人
6月27日	"	"	"	特集

- 注意: 他にイギリス・ロンドンの ICA と Notting Hill Gate、イタリア・ローマの Filmist Studio 70、ドイツ・ハンブルグの Amerika Haus とベルギー・ブリュッセルのベルギー王 立フィルムアーカイヴでも上映が行なわれたが日程・詳細は未確認。会場も未確認だが、イギリスのノッティンガム、マンチェスター、リヴァプールでも上映が行なわれた。
 - 1 オーバハウゼン短編映画祭では同じ日に久里洋二の「G線上の悲劇」、大井文雄「無限大・無限小」、桂宏平の「うたかたの恋」、林静一の「かげ」と島村達雄「透明人間」がマダガスカーとオーストラリアの短編作品一本ずつと一緒のプログラムで上映された。
 - 2 飯村隆彦はフランクフルトの EXPERIMENTA '69 に招待され、彼の代表作「あい」がカート・クレンの作品などと一緒のプログラムで上映された。

実験映画作家・飯村降彦の 1969 年ヨーロッパ・ツアー映像作品一覧

天駅吹画作家・取竹座多の1909 キョーロッパ・ファー吹像作品一見					
監督	作品	英題	年	分数	プリント
飯村隆彦	あい	AI / Love	1962	11 min	16mm
飯村隆彦	_	Flowers	1968	12 min	16mm
飯村隆彦	ヴァージン	Virgin Conception	1967-68	18 min	16mm
飯村隆彦	_	Summer Happenings U.S.A	1968	28 min	16mm
飯村隆彦	カメラ・ マッサージ	Camera Massage	1968	6 min	16mm
飯村隆彦	_	Face	1968-69	21 min	16mm
飯村隆彦	いろ	Iro / Colour	1962-63	11 min	16mm
飯村隆彦	リリパット 王国舞踏会	A Dance Party in Kingdom of Lilliput	1964	12 min	16mm
飯村隆彦	_	De Sade	1962	9 min	16mm
飯村隆彦	ホワイト・ カリグラフィー	White Calligraphy	1967	18 min	16mm
高林陽一	ひなのかげ	Image of Hina Doll	1967	18 min	16mm
大林宣彦	Complexe = 微熱の玻 瑠あるいは悲しい饒舌ワ ルツに乗って葬列の散歩	Complexe	1964	14 min	16mm
金坂健二	石けり	Hopscotch	1966	10 min	16mm
外山鶴良	血吸い	Blood Sucker	1967	14 min	16mm

戦略だったのか? された「エロス」は実験映画の上映に客を導くためには必要な 場の公式によってエロスの主張が違ったようだが、 調されたようだが、 sensuous explorations of the art of love from the Japanese 氏主催のニューヨークのブラック・ゲート (Black Gate) でも も出来る。しかし、 イメージは過去の日本というイメージを打ち壊す政治的 ルの上映ポスターは特に象徴的でありながらも、 ゲン、アムステルダム、トリノ、カッセル、ヴェロー 批評を見ると同じく二つのテーマに重点が置かれたようだ。 は「日本アンダーグラウンド」や「エロス」のテーマが宣伝で強 は北米で上映されるようになった雲。 はフィルム・アンデパンダン周辺作家以外にも日本の実験映画 Underground」が上映されたセ゚。その後七○年代に入ってから ルチ・プロジェクションのイヴェントが行なわれ⁴、同じゲー ーリッヒの上映ではエロスの誘致をある程度利用していたよう ト・シアター(Gate Theatre)では「Japanese Erotica–poetic 九六八年十月四~六日に飯村隆彦と来日した松本俊夫の ニューヨークを中心に紹介された日本の リチィー 巨大なペニスが微かに背景に見える日章旗を隠すカッセ 芸術家・アルドー・タンベリーニー や日本大学芸術学部映画研究会の作品が上映され ヨーロッパでもプログラムの題名や新聞 ロンドンのメンバー倶楽部の宣伝でも主 エロスは実験映画の分野では世界的にも注 実験 (Aldo Tambellini 映画は、 この衝撃的 コペンハー ナ、 北米 な解釈 チュ 張 0 で



表作「あ 行為を描

11 11

は日本

、た彼 制作

の代 : の 性 製作はエロ に当たる飯

スをテー 村隆彦の 年代後半

こされ かに六〇

る事

が多

マとした作品が多く

九六三年

る 44 ° が多かったと思わ 作家の作品を見ると の実験映 番海外 別にエロ で上映された他 かし、 の上映回 画 スをテー 0 り中では ツ 0 ア n 数

思わ 戦略だったのか? エロ マとした作品は少ない。 !本の実験映画の認知度がヨーロッパで広がった事は重要だと n ス」の主張は何処まで飯村隆彦自身、 何はともあれ、 北米でも行なわれたプロ 飯村隆彦のツアー もしくは各会場 グラムによる によって 0

は 九六六~六九年までニューヨ (主にニューヨーク) での活動を中心に語られ 1 クに滞在 Ĺ た 飯 る事 村 隆 が 彦

> され Neuer Berliner Kunstverein e.v. –Videothek で開催した。 は ヨ 年ではオーストリア・ブリゲンツのパレ・トルン・ウント 制作前衛映画の祭)にも飯村隆彦は二つのプログラムとフィ も始めた飯村隆彦は、 Aktionen der Avantgarde (アヴァンギャルドの行為) 交流会(DAAD)のフェローシップで一九七四年までベ クシスで「プロジェクション・ピース」の展示を行なったホー。 ム・インスタレーションを一つ出品した⁴゚。その後も一九七三 ンドンのICAと国立映画劇場 イツ以外にも活動は幅広く、 ョン作品の個展 TAKA IIMURA VIDEO TAPES 1970–1973 を 加して幅広く活躍していた㌔。六〇年代後半からビデオ制作 リン)で五日に渡ってフィルムとビデオの上映、 に滞在していた飯村は、 (ミュンヘン) で個展、 1 たA Festival of Independent Avant-Garde Film しかし、 ロッパを拠点としてい 一九六九年のツアー以来の七〇年代初期 そしてベルリン芸術アカデミーの 一九七四年にビデオのインスタレー 九七三年だけでもアーゼナル 一九七三年九月三~十六日まで た。 N F T 九七二年にはド 現在BFI) ベーカー画 イ で開 ルリン - (自主 ツ芸 0 ADA. 活 ĸ シ ル ル 催 口

村隆 ル 1 A 0 一彦は、 九 アー 七四 イン ル 年に 続 スタレー ストにある小さな画廊ニ け ć ベ ル ・ショ 九七四 リンから離れてから ン「ひとつの線として見みえるひと 年 九月二十二 ユ 1 ~二十三日 パ リに IJ フォー 引 0 K 越した ムでフ ベル ギ 飯

した飯 作品 プロ パ 画 あったが、一九七九年六月の 年代に当たるヨーロッパの殆どの上映活動は個人作品 College of Arts) 美術学校でも上映を重ねた。 行き、 ひとつ で始めて開催した個展はサン・ジェルマンの小さな 1 0 0 (Charlemagne (Gate Cinema) とロイヤル・カレッジ・オブ・ ショ IJ 作品であ 0) 0 オランダ人の写真」などを含む十二人の作家による十 の上 十日 六日 ブ 1 ル D ンも ポンピド 村隆彦が個人的 のループ」 ロンドンのNFT、 1 (Allan Kaprow) やシャル ーグラム 一映とフィ に開 一十一月十三日までの間 プ ŋ 行 を展 催されたビデ なった。 を上 ニュ Palestine) ゥ を再度展示した。 ル 1 示 1 映 4 べした₄₈。 そし そ センターでも上 ヨーク近代美術館 に選択した奥山順 パ 0) ハフォ などの巨匠と一緒に展 ノッティン ノオ 後 7 口 映 この 'n 8 1 ンドン前衛 パリ 画 グ マンスも含め 「ひとつの線として見みえる n 1 上. パ ル 特集は七〇年 のジェル 映 一映が行 リ滞在中はロンドンにも マ グ・ヒル とどど 1ニュ・ プ 市 展 映 公では、 デ 九六 なわ 映 画 オの マン で日 祭では 0 飯村隆彦の 画 アー 代に ゲー パ 八年三 n 示した。 イ た 49 アラン・ 画 P 本 画廊23で十 レ ツ 彼は個 -トシネ スタ 廊 ン 居 \dot{o} 0 実験 時 出 (Royal で ス 田 月 七〇 パ イ 九 伊 帰 品 夕 本 佐 映 人 マ 1) 力 月 玉 で V

> 品制 に日 業映 商業映 日日 はヨー 代で上 認められ 徐々に増え、 による影 ことは出 れる例もあったようだ。しかし、 1 祭などで上 \exists 本 作 画 口 口 1 一映され や上映活 Ó の 画 ツ ッ 口 П ーッパ (響などもこれからは考えなくていかねばならない パ 来ない。 映 経 P パ ていく事となった。 ッ 画が 実験 側 から日本に対 由 から から北米に偏っていくようになっ 日 一両方に当たる各自の個人活動や企 一映が行なわれた。北米と同じくヨ た作品は数少なく、 動を行った作家の道筋や海外の活動と接した事 同 映 本の実験映画も臨在が EXPRMNTL3 で始まり、 その Ú .時代に語られていたかという全体像を捉える 画 み 0 Ę 出 配給は広がる事となった。 た自主活動も辿らなくては、 しての関心は続い 飯村隆彦のように 日本人の美術 誤解を招くような形 ヨーロッパ が広がり、 たようだ。 家 0) 海 . でも上 一画によっ たのは事実だが 1 後 外でも長 映 このような商 画 莂 п b 断続 作 的 ッ どの 映 に作 で上 パ \mathbf{H} 家 本側と に同 て、 0 回 的 と思 間 関心 一映さ 数 家 13 非 作 は は

日

ず

飯

う。

発生: 村隆 Ŧi. 四 彦 3 口 九 ッ 六 パ 九 上 0 映 以旅行 別 映 季 画 刊 ヘア フ イ ン ル K 4 レ 四 丰 秋の

現

状

を

調査してみた。

H

本の

実験映 同

画

0

本格

的

な海外分配は

形

で日

本

0

実験映

画 個

作品

が

時代に

I E 経由

口

ーッパ

で紹介され

た

阃

館

Y

ハツア

1

などの

を通して、

どの

よう

飯村隆彦(一九七四)。Taka Iimura: vidio plans 1972-1974. Aalst, Belgium: self-published.

飯村隆彦 (一九七八)。'On Film Installation', Millennium 飯村隆彦 (一九七八)。'On Film Installation', Millennium

ポンテンに N 15%、 17mmで、アンデ大島辰巳(一九六五)。「無からの創造 ——フィルム・アンデ飯村隆彦(一九八五)。パリ=東京 映画日記。東京:星雲社。る 各国、美術館が上映の場」、毎日新聞、六月二日(夕刊)。飯村隆彦(一九七九)。「日本の実験映画 米仏で高い評価得

評論、v. 25、no. 3、三月号、三四~三九頁。

'A Special Correspondent' (1972). 'London Film Festival '72', Cine Advance, 30th November.

Bardon, Xavier Garcia (2013). 'EXPRMNTL: an Expanded Festival. Programming and Polemics at EXPRMNTL 4, Knokke-le-Zoute, 1967', Lupe Núñez-Fernández (trans.), Cinema Comparat/ive Cinema, vol. 1, no. 2: 53-64.

Bell, Ian (1984). 'An industry in transition', Scotsman, 30^{th} July.

Brown, Geoff (1984). 'Japanese shots at living dangerously in the dark', The Times, 11th August, p. 14. Caem, Michei and Roland Lethem (1970). '[title

unknown!, Midi/Minuit Fantastique, no. 21 (April): pages unknown. Republished in 2013 as「若松孝二との対話(聞き手 ミシェル・カーン/ローラン・レーテム)」、和泉晃 (訳)、阿部晴政 (編)、「若松孝二 闘いつづけた鬼才」。東京:河出書房新社、一二七~一三五頁。けた鬼才」。 Gammaer, Gerda Johanna (2005). 'EXPRMNTL 3 /

Knokke-le-Zoute 1963: Flaming Creatures, Raving Features', Synoptique, vol. 8, http://www.synoptique.ca/core/en/articles/cammaer_flaming.

Cane, John du and Verina Glaessner (1973). 'It's a Child's Game for Men', Time Out, 12–18th January.

Chin, Daryl (1978). 'The Future of Illusion(ism) Notes on the New Japanese Avant–Garde Film', Millennium Film Journal, vol. 1, no. 2 (Spring/Summer): 86–94.

Continental Film Review (1972), 'a new talent from Ja-

pan', Continental Film Review (November): 16, 30. Davidson, Julie (1984). 'Deep in the heart of Texas' Glasgow Herald, 18th August.

Dowle, Martin (1978). 'Look at the world of "The Boxer", Scotsman, 24th August, p. 19.

Evening Standard, (1972). 'Londoner's Diary', Evening Standard, 27th November.

Gillett, John (1970). 'Coca Cola and the Golden Pavilion', Sight and Sound, vol. 39, no. 3 (Summer): 153–157, 166.

Hardy, Forsyth (1984a). 'Japan's rebel film-makers' Scotsman, 20th August, p. 5.

- Hardy, Forsyth (1984b). 'Joyous end to Japanese event', Scotsman, 27th August, p. 5
- Hardy, Forsyth (1984c). 'Surprises from Japan', Scotsman, 20th August, p. 5.
- Iwabutch, Masayoshi (1975). 'New Japanese Films' Young Cinema and Theatre, no. 2: 36–37
- Lethem, Roland (2013). 「若松孝二、クノックにて――ク た鬼才」。東京:河出書房新社、一三五~一三六頁。 松本潤一郎(訳)、阿部晴政(編)、「若松孝二 闘いつづけ リスマス(一九六七年)から新年(一九六八年)にかけて」、
- Mekas, Jonas (1964). 'Flaming Creatures at Knokke-le-Macmillan, pp. 111-115. the New American Cinema 1959–1971. New York: in Mekas, Jonas (1972). Movie Journal. The Rise of Zoute', Village Voice, 16th January 1964 - Reprtined
- Rayns, Tony (1973). 'Reflected Light: Independent (Winter): 16-20 Avant-Garde Cinema', Sight and Sound, vol. 43, on. 1
- Rayns, Tony (1975). 'Line Describing an Impasse: EX-PRMNT 5', Sight and Sound, vol. 44, no. 2 (Spring):
- Rayns, Tony (ed.) (1984). Eiga: 25 Years of Japanese Festival. Cinema. Edinburgh: Edinburgh International Film
- Rayns, Tony (1986). 'Nails That Stick Out: A New Independent Cinema in Japan', Sight and Sound, vol. 55 (Spring): 98-104.

- Richie, Donald (1960). 'Japan: the Younger Talents', Sight and Sound, vol. 29, no. 2 (Spring): 78-81.
- Robinson, David (1975). 'Edinburgh's Terayama happening',The Times, 9th September, p. 45.
- Sato, Tadao (1973). 'Japanese Cinema: The New Left' Sight and Sound, vol. 42, no. 3 (Summer): 171-174
- Stein, Elliott (1968). 'Dr. Ledoux's Torture Garden', Sight and Sound, vol. 37, no. 2 (Spring): 72-73.
- Stern, Lesley (1983a), 'Image Forum: An Interview with Katsue Tomiyama', Framework, no. 22/23 (Autumn):
- Stern, Lesley (1983b). 'Tomato Ketchup/Passion Fruit: no. 22/23 (Autumn): 67-70. Variations on Japanese Independence', Framework,
- Wlaschin, Ken (1971). 'Death Dreams and Sexual Liberation', Today's Cinema, 20th November.
- Zoller, Maxa (2011). "Festival" and "museum" in mo-Space: The projected image in contemporary art Press, pp. 53-72. Manchester and New York: Manchester University dernist film histories', Tamara Trodd (ed.), Screen/

註

1 般上映の関連性を英国の例を通して考える事が出来るのでは この点はマイケル・レーン氏の論文と反復して 、映画祭と

ないかと思う。

- 東京藝術大学の馬定延の研究を参考にしてもらいたい。 2 「Fluorescent Chrysanthemum」展覧会の詳細に関しては
- っ Mekas, Jonas (1964), p. 114参考。
- 矢理上映が行なわれた。
 矢理上映が行なわれた。
 女は、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いかのでは、いい
- 5 Sight and Sound 映画雑誌の一九六○年夏号でドナルド・本大学映画学部の作品「釘と靴下の対話」について書かれた論文が日本の実験映画を英国に始めて文章の形で紹介されたと思われる。Richie, Donald (1960), p. 81参考。
- たり」は「戦争ごっこ」と一緒に上映された。 しかし、数日前の一九六四年六月五日にSAC試写会で「ふたり」は、恐らく長編作品であるがため上映されなかった。 この際は同じく特別賞を受賞したドナルド・リチィの「ふ
- 一九六四年九月四日号にて発表された。 フィルム・アンデパンダンのマニフェストは日本読書新聞、正生と金坂健二がフィルム・アンデパンダンに参加した。 他にも評論家の佐藤重臣と石崎浩一郎、映像作家の足立
- Rayns, 1968, p. 80参考。他にも松本俊夫、飯村隆彦、安藤賞して、岡部の作品は分類制度に耐圧する作品として褒めた。中井の作品は「映画祭の中でもっとも強烈なく評価した。中井の作品は「映画祭の中でもっとも強烈なる。 家トリー・レインズ氏は中井恒夫と岡部道男の出品作品を高家トリー・レインズ氏は中井恒夫と岡部道男の出品作品を高います。

なわれた。 マカれた。 Rederlands Filmmuseum で特集が行せン映画祭で受賞など。一九六八年八月、一九七二年十二月在員賞受賞、一九六四/六五/六七/六八年にオーベルハウ面祭で青銅賞を受賞、一九六三年にアンシー映画祭で特別審コーロッパで注目を浴びていた。一九六二年にヴェネチア映コーロッパで注目を浴びていた。一九六二年にヴェネチア映コーロッパで注目を浴びていた。一九六二年にヴェネチア映

高林陽一「石ッころ」(高林陽一、一九六○年)はイタリ

- 感激したらしい。佐藤重臣 (一九六八)、三四―三五頁参考。品と寺山修司の劇作品「青森県のせむし男」を見せてもらい、一九六七年五月に日本に訪れた時に佐藤重臣に若松孝二の作11 Lethem, Roland (2013)、一三六頁 参考。レーテム 氏は

紘平の作品が EXPRMNTL5で上映された。 久里洋二の作品も

- 15 14 13 12 Lethem, Roland (2013)、一三六頁参考。 Caem, Michei and Roland Lethem (1970)
 - (一九六八)、三八頁参考。
- 辱映画『壁の中の秘事』について」、四方田犬彦・平沢剛 (編)、 ランド・ドメーニグ、「仕掛けられたスキャンダル―― 参考にしてもらいたい。 | 若松孝二 反権力の肖像」。東京:作品社、 壁の中の秘事」のベルリン国際映画祭上映に関してはロ 四七―八四頁を
- 17 16 Herostratus(一九六七)の上映時期のICAの時報を参考。 Bardon, Xavier Garcia (2013)、六二頁参考。
- 19 18 Stein, Elliott (1968)、七二頁参考。
- 20 のうち二本がATG製作作品の「戒厳令」と「股旅」だった。 グを飾った(一九八〇年に「影武者」と一九八五年に「乱」)。 翌年のロンドン映画祭(一九七三年)も日本代表作品三本 ロンドン映画祭はその後も二回黒沢明の作品でオープニン
- 22 21 しかし、一九五九年に成瀬巳喜男監督作品の「コタンの 一九七三年エディンバラ国際映画祭カタログを参考。 」の上映はあった。

 \Box

- 23 この中でも今村昌平の作品が三本上映されて、「豚と軍 と同じプログラムで上映され、唯一「日本」という枠から離 はサンティアゴ・アルバレス (Santiago Alvarez) の短編作品 れた形で紹介された。
- されている。 その上、「ユンボギの日記」は昨年の一九七二年でも上 映
- と一緒に上映されて、「AUTONOMY」は小川紳介の記録映 他に「EXPANSION」は今村昌平監督作品 「三里塚の夏」と同じプログラムで紹介された。第十三回 「にあんちゃん」

- 受賞など、松本俊夫もヨーロッパである程度上映回数を重 祭でヴィム・ヴェンダースの短編作品などを含む短編特集に ていた。一九七二年ではオランダ・ロッテルダム国際映 と第十八回ヴェネチア国際記録映画祭サン・マルコ金獅子賞 EXPANSION」が上映された。 画 ね
- (一九六○)と「にっぽん戦後史 マダムおんぼろの生活 今村昌平の「にあんちゃん」(一九五九)、「豚と軍艦」 筆者不明 (1971). The Times, 16th December より参考。
- (一九七○)が上映された。 Robinson, David (1975), 45頁参考。
- 寺山修司逝去後に開催された特集は寺山修司に捧げられ
- Bell, Ian (1984) 参考。
- いう作品——「Fluorescent Chrysanthemum」展のディス 展示の詳細や受容に関しては馬定延の研究発表「展覧会と Davidson, Julie (1984) 参考。

プレイ」(二〇一三年六月二九日発表)を参考にした。

- ンバー倶楽部上映が行なわれたそうだ。 異なるため掴みにくいところがある。トニー・レインズ氏に の墓場」(一九六〇)などの作品はエロスを強調した宣伝でメ よると新藤兼人監督「黒猫」(一九六八)や大島渚監督「太陽 会員制の倶楽部で上映された映画は宣伝経由が一般公開と
- Gallery & Better Books: Art, Anarchy & Apostasy. (二〇一二年六月二八日~七月二九日)を参考にした。 ベター・ブックスに関しての詳しい情報は Flat House
- 1] \$\pi 2\$ minutes 46 seconds 16 frames (9 min.), Timing 1, 2 3, 4 (12 min.), Time Length 1, 2, 3, 4 (12 min.) \sim Timea 一九七四年エディンバラ国際映画祭のプログラム:「Ree

- 1, 2, 3 (12 min.)、「Reel 2」は Counting 1 to 100 or Xs (12 min.), A Line 1, 2, 3 (18 min.), To See the Frame, Not to See the Frame (12 min.) と Seeing Not Seeing (4 min.) が八月二八日に上映された。後に Reel 1と Reel 2は MODELS Reel 1 (1972, 43 min.)と MODELS Reel 2 (1972, 44 min.)に改名された。
- 36 一九七四年エディンバラ国際映画祭カタログ、七三頁参考。37 オーバハウゼン短編映画祭では同じ日に久里洋二の「G線オーバハウゼン短編映画祭では同じ日に久里洋二の「G線グラムで上映された。
- のプログラムで上映された。 れ、彼の代表作「あい」がカート・クレンの作品などと一緒38 飯村隆彦はフランクフルトの EXPERIMENTA '69に招待さ
- して紹介された。 の特集では飯村隆彦「リリパット王国舞踏会」、藤野一友 の特集では飯村隆彦「リリパット王国舞踏会」、藤野一友 の特集では飯村隆彦「リリパット王国舞踏会」、藤野一友 の特集では飯村隆彦「リリパット王国舞踏会」、藤野一友
- た右眼のために」(一九六八)が上演された。「スリー・カラーズ」(一九六八)と松本俊夫の「つぶれかかっ「スリー・カラーズ」(一九六八)と松本俊夫の「つぶれかかっがラムが上映された。

- メラ・マッサージーと富丑勝払り「咰枚者一(一九六三)。映された作品は飯村隆彦の「あい」、「De Sade」、「いろ」、「カからの詩的で感覚的な性の芸術探求」。このプログラムで上22 翻訳すると「日本エロティカ・日本のアンダーグラウンド
- ネマ」が一例として挙げられる。この特集では松本俊夫、萩開催された「ニュー・ジャパニーズ・アヴァンギャルド・シー例えばニューヨークのミレニウム劇場で一九七四年三月にメラ・マッサージ」と富田勝弘の「殉教者」(一九六三)。
- リンのミラー大学で客員講師の仕事もしていた。 「Project Yourself」を展示した。他にも Robert Filliou, Wolf Kahlen, Mario Merz, Allan Kaprow と Wolf Vostell が参加 した展示である。 上映の他にも一九七三年に飯村隆彦はベル リンのミラー大学で客員講師の仕事もしていた。
- 敬一、奥山順市の作品が上映された。 敬村隆彦は一九七三年九月五日に MODELS Reel 1と が挙げられる。相原信洋、かわなかのぶひろ、田名網 上映)が挙げられる。相原信洋、かわなかのぶひろ、田名網 上映)が挙げられる。相原信洋、かわなかのぶひろ、田名網 上映)が挙げられる。相原信洋、かわなかのぶひろ、田名網 と関連性も強い「+&-」 をICAで展示した。飯村隆彦(一九八五)、一五―一九頁参考。 をICAで展示した。飯村隆彦(一九八五)、一五―一九頁参考。
- で国立映画劇場、ICA、国立ヘイワード画廊で開催された。AVANT-GARDE FESTIVALで一九七九年六月九日~十七日ま映画祭の名前はFILM LONDON-THIRD INTERNATIONAL

専門雑誌「ミレニアム・フィルム・ジャーナル」の表紙を飾された。居田伊佐雄の「オランダ人の写真」はアメリカ映画された。居田伊佐雄の「オランダ人の写真」はアメリカ映画された。居田伊佐雄の「オランダ人の写真木画廊の協力で企画うだ。

「中で、アオーラムと真木画廊の協力で企画うだ。
「中間」をテーマとした作品が強く認められていたようだ。
「中間」をテーマとした作品が強く認められていたようだ。

の作品が上映された。 の作品が上映された。